

衆議院議員

もとむら

けんたろう

賢太郎

《相模線特集号》

- 番田駅が生まれ変わります
- これまでの取組み
～複線化、終電繰り下げ～



JR相模線・番田駅が生まれ変わります。
来年の春には、「エキマチStation」として新しくなった番田駅になる予定です。



駅舎リニューアル（イメージ）



現在（1941年竣工）

※JR東日本 横浜支社
報道発表資料より

今年の9月から、番田駅のリニューアル工事が始まりました。現在の駅舎は1941年に竣工。番田駅は、昭和の面影が残る、愛されてきた駅舎がなくなるのは残念ですが、利用者にとって快適に利用できる新・番田駅となることを期待しています。

工事終了予定は来年の春。「エキマチStation」として、「エキ（駅）とマチ（町）を広場で結ぶ新しい番田駅」のコンセプトのもと、リニューアルされています。なお、工事期間中は、駅舎以外（駅舎外のホームや跨線橋、旅客トイレ、多機能トイレ）は利用可能とのこと。

JR相模線については、複線化や終電の繰り下げなどといった課題があります。もとむら賢太郎が地元の森しげゆき市議会議員と共に取り組んできた内容については、裏面で詳しくお伝えしてまいります。

もとむら賢太郎
プロフィール

昭和45年(1970年)4月生まれ。相模台幼稚園・桜台小・相模台中・県立麻溝台高・青山学院大卒。本村和喜参議院議員秘書、東鉄工業(株)を経て、藤井裕久衆議院議員秘書。平成15年神奈川県議選に選挙区最年少で初当選、平成19年にトップの得票で再選。平成21年衆議院議員初当選。平成24年総選挙で惜敗。平成26年12月衆議院議員再選。民進党国対副委員長、党神奈川県連代表、衆議院国土交通委員会次席理事、議院運営委員会委理事などを歴任。平成29年10月3期目当選。希望の党副幹事長。

【もとむら賢太郎の取組①】相模線 終電繰り下げ実現 ※平成26年の公約※

もとむら賢太郎は、平成26年の衆議院議員総選挙において、皆様に「相模線の終電繰り下げ」をお約束してまいりました。衆議院国土交通委員として、地元の森しげゆき市議会議員とともに、実現に向けて取り組んできたところ、平成28年3月26日から実現。橋本駅から茅ヶ崎方面への終電は23時21分から23時48分に、海老名駅から橋本方面への終電は23時50分から0時15分になりました。

また、帰りの通勤時間帯の海老名行が1往復、橋本まで延長増発されたことで、海老名止まりが解消。生活路線として、使いやすくなりました。



【もとむら賢太郎の取組②】相模線 複線化を目指して

「相模線の複線化をしてほしい」「行き違い設備を作ってほしい」

— そんなお声をいただき、現在は全線単線である相模線の複線化について、平成28年11月16日にもとむら賢太郎は衆議院国土交通委員会で質疑を行いました。質疑の内容は下記のとおりです。（一部抜粋）

【質問】 神奈川県としても、この相模線は、県央・湘南都市圏における環境共生モデル都市圏の形成に当たり、東海道新幹線新駅も建設予定でございますが、倉見駅を南のゲート口、そしてリニア中央新幹線の橋本駅を北のゲート口として、全国との交流連携の窓口となる南北のゲートを結ぶ相模線連携軸に位置づけています。

また、平成10年2月には、県や沿線市、商工会議所、商工会などでつくる相模線複線化等促進期成同盟会が設置をされておりますし、今年3月には、県、沿線市町、経済団体と東日本旅客鉄道株式会社横浜支社において、相模線と沿線地域の活性化を目的とした取り組みを実施していくために、相模線沿線活性化協議会を設立しております。また、地元の相模原商工会議所の今年度の相模線複線化の要望に関しまして、国交省からは、案件の成熟度を高めていくことが重要であるという話も指摘をいただいております。

神奈川県にとって、リニア中央新幹線の駅が予定される橋本を含み、南北をつなぐ重要な路線でありまして、今後の輸送力・利便性向上が期待され、複線化に対しても強い要望が地元自治体、経済団体等々からもあります。国交省として、相模線の役割、複線化に対してどのように捉えているのか、お伺いいたします。



【答弁】（国土交通省）

J R相模線につきましては、沿線の通勤通学の足としての役割を果たしておりまして、また、リニア中央新幹線の駅が橋本に設置される予定であるなど、**地域の重要な鉄道路線であると認識いたしております。**

J R相模線の利用者数につきましては、一日当たりの輸送密度が、平成二十三年度の約二万四千六百人に對しまして、平成二十八年度は約二万八千二百人となり、**増加傾向にある**と承知をいたしております。

また、御地元では、相模線と沿線地域の活性化を目的として、先生からお話ありました関係自治体、経済団体及びJ R東日本から成る相模線沿線活性化協議会が設置されておりまして、相模線の利用促進、利便性向上、サービス改善等について検討がなされていると伺っております。

相模線の複線化につきましては、混雑の状況、沿線開発等に伴う今後の輸送需要の動向、収支採算性等を総合的に勘案した上で、基本的には鉄道事業者の経営判断により行われるものでございます。

また、複線化事業では沿線自治体が費用の一部を負担する事例が多いことから、駅周辺開発と一体的に行われることもありますので、活性化協議会も活用しながら、地元自治体と鉄道事業者との間で合意形成を図りながら進めていけることが重要ではないかというふうに思っております。



写真は、石井国土交通大臣

●お問合せはこちら

もとむら賢太郎事務所

【相模原】〒252-0332 神奈川県相模原市南区西大沼2-52-13 大沼センタービル TEL 042-851-6152 FAX 042-851-6162

【国会】〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館606号室 TEL 03-3508-7176 FAX 03-3501-3606